

平成28年度 奈良大学附属高等学校 学校評価総括表

No1

<p>学校運営方針</p>	<p>学校創立100周年に向け高大連携を強化するとともに、一人ひとりを大切に、情熱と活気に満ちた学校をめざし、『学校経営グランドデザイン』を基盤にし、『CHANGE』を合言葉として、「求める生徒像」を共有しながら組織の一員としての自覚と責任と誇りをもって教育活動を推進する。</p>		<p>総合評価 B</p>
<p>昨年度までの成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>◆成果 これまで本校では、『建学の精神』を体するとともに不易と流行を心得、充実した施設設備を最大限に活用して、特進、文理、標準それぞれのコースの生徒の実態を見据えながら創造的で独創的な取組を重ねてきた。 「生徒一人ひとりを大切にしている学校」、「部活動や国際交流が盛んな学校」、「基本的生活習慣が身についた生徒が多い学校」というイメージの定着と各種の広報活動が奏功し、本校への志願者・入学者は増加している。</p> <p>◆課題 教員はそれぞれの力量を発揮して教育実践に勤しんでいるものの学校としてめざす方向性(「めざす学校像」「めざす教師像」「求める生徒像」)が明確でないこともあって、「組織」としての協働意識がやや希薄であった。 生徒は真面目で規範意識に基づいた行動をとることができる。 ただ、成功体験に乏しく自尊心をもちない生徒や特別な支援が必要な生徒などの増加に伴い、学校全体としての共通理解と組織的、計画的な取組が求められる。</p>	<p>1 学校経営目標の実現</p> <p>(1)豊かな人間性を養う教育(徳育)の推進</p> <p>(2)確かな学力を養う教育(知育)の推進</p> <p>(3)健全な精神と健康を養う教育(体育)の推進</p> <p>2 外部との連携及び情報発信の充実</p> <p>3 学校改善のための継続的かつ創造的な取組</p>	<p>○自主自立の精神を涵養する ・自己の言動への責任を自覚させる。 ・自己を律し、課題を解決する習慣と努力を促す。 ・自らを省みる時間を大切にすることで、自立の精神を養う。</p> <p>○総合的な人間力を育成する ・人権尊重の精神と生命への畏敬の念を深める。 ・他者を思いやり尊重する態度と、他者と協調する態度を身につけさせる。 ・キャリア教育や社会貢献活動等とおして社会の一員であることを自覚させ、自尊感情を高める。</p> <p>○生徒と授業を大切にする ・授業で勝負する姿勢を堅持し、生徒一人ひとりと向き合う。 ・授業研究に徹し、生徒の心に火をつけるような授業を創造する。 ・生徒が自発的意欲的に学習に取り組むような指導を心がける。 ・アクティブラーニングやICT活用など先進的な授業開発に取り組む。 ・アンケート等により授業を評価し、授業力と資質の向上に努める。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させる ・食事、運動、睡眠などの基本的生活習慣を重視する。 ・敬意と親愛と感謝をこめた明るい挨拶を心がける。 ・ルールやマナーなど、規範意識の向上に努める。 ・健康を保持し、危険回避能力を身につける。 ・いじめを許さない気風を醸成する。 ・体育の授業だけではなく、自らの生活の中に体力向上をめざした運動の習慣を確立させる。 ・部活動を奨励し、応援も含めて学校への帰属意識や愛校心を培うことにより、奈良大学附属高校生としての誇りと自覚を高める。</p> <p>○「地域と共にある学校づくり」を推進し、地域行事への参加や諸機関・施設との連携を促進する。 ○ホームページやオープンキャンパスなどの充実及び学校行事等の積極的な報道提供などにより、中学生やその保護者及び広く県民に対し本校の魅力を情報発信することで、効率的・効果的な広報活動を推進する。</p> <p>○生徒・保護者・教職員及び学校関係者が一体となった学校評価に取り組む。 ○月1回の「理事長・高校協議会」を更に充実させ、学校改善へとつないでいく。 ○学校改善に資するべく、企画委員に対して『SMAP(School Management Appraisal Plan)』の作成を求める。</p>	

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
人権教育部	「人権教育」	生命の尊重、人権の尊重を本校教育の中核に据え、教職員が豊かな人権感覚を身につける。	教員研修の実施と高入教、私学人推協主催の各種研修会に積極的に参加する。	B	B	職員研修は、1年生担任を対象にしたものだけでなくとどまった。2022年度の公開HRを見据え、校外研修への多くの先生方の参加を促せた。 鑑賞行事の感想文集の発行が遅れた。「実施報告書」の導入により、次の課題が明確になった。合同HRの実施ではなく、クラス単独の実施で力量を磨いてもらえるようにしたい。 進路指導部との連携はほとんどできておらず、高入教での報告を聞いた後、本校ではどうであったかと確認するにとどまっている。現場が混乱しないように奨学金対応をするものの、新制度導入で慌ただしくなった。 定期啓発文書に加え、人権研究部員の活動も促せた。本校の人権活動に対する保護者の認知が低めなので広く知ってもらう工夫が必要である。
		ホームルーム指導等をおして生徒の人権意識を高める。	人権教育芸術鑑賞会を実施する。 校内一斉の人権ホームルームを実施する。	B C	B	
		進路指導部と連携し、進路保障への取組を推進する。	受験・就職選考にかかわって不適切な事象に対応する。 各種奨学金の紹介、受付及び指導を行う。	C B	C	
		生徒の自主活動を支援し、保護者への啓発活動を図る。	人権教育部の活動を促進し啓発文書を発行する。	B	B	
教務部	「学習習慣の確立」	授業開始時間を厳守し、学習活動の工夫により基礎学力の定着を図る。	授業開始のチャイムを教室で聞く。	B	B	学級担任と教科担当者の連携を深め、生徒の学習習慣の定着を更に促してゆく。 次期学習指導要領を見据えた指導態勢を構築し、研鑽を継続する。 次年度は、生徒に向けた学業面におけるICT化を進める。 部内において協力体制を整える。
	「授業改善、指導力向上の推進」	不断の教材研究と公開授業の実施及び参観により教科指導力を磨く。	全ての教科で、最低でも学期に1回の公開研究授業を実施する。	A	B	
			教科等研究会や県主催の研修会への積極的参加を促す。	B		
			『シラバス』を発行する。	C		
	「ICT教育の推進」	ICTをまずは校務用から組織的に活用し、業務の効率化を図る。 アクティブラーニングを意識したICT活用を模索する。	職員朝礼や職員会議における連絡事項や会議資料にICTを活用する。	A	B	
ICT活用教育推進委員会からの発信及び共通理解のための研修を実施する。			B			
「日常業務の円滑化」	授業、教育課程、学校行事等が円滑に実施されるための調整・支援を行う。	『教務部年間実務表』に基づき業務をスムーズに計画・実施する。	B	B		
生徒指導部	「基本的生活習慣の確立」	挨拶や時間の厳守・正しい服装・規則正しい生活の確立を図る。	職員・生徒ともに互いに挨拶をし、明るい学校の雰囲気を作る。	B	B	職員室等への入室時の際の挨拶の定着に課題を残した。 全体として遅刻の回数を減らすことができた。 概ね指導を定着させることができた。 特に5限目の授業開始のチャイムを守らせることに課題を残した。
			規則正しい生活習慣を確立することで、健康で充実した学校生活を送らせる。	A		
			月1回の服装頭髪指導を実施し、ルールを守ることで、規律の大切さを理解させる。	B		
			授業開始の時間や提出物の締切期限を厳守する態度を養う。	B		

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
生徒指導部	「登下校及び校外指導、危機管理体制の整備」	登下校指導の徹底を図る。生徒のあらゆる面での安全確保を推進する。	登下校を中心に交通安全指導を行うとともに、不審者等への対応も含め生徒の安全確保に努める。	A	A	大きな事故無く、安全に登下校できた。
			交通安全講習を実施するなど、自転車や歩行中の注意、公共交通機関でのマナーを学ばせる。	A		自転車通学生のみならず全校生徒を対象とした交通安全指導講習が実施できた。
			避難訓練を実施するなど日頃から防災意識を高めておく。	B		総務部が企画した防災訓練に部として協力できた。
			携帯電話の使用について講習会を実施し、インターネットやSNSなどの危険性の周知徹底を図る。	A		LINE株式会社より講師を招いて、SNS利用時の注意事項について講演を実施した。
	「生徒会活動及び部活動の促進」	自主的な活動の推進を図る。	体育祭や文化祭などの学校行事を生徒の運営にゆだね、自治活動の理解と自主性を育む。	B	B	生徒の自主的、実践的な取り組みが見られた。行事を通して望ましい人間関係の形成はもたらん、集団の一員としての自覚を促すような取り組みを実施したい。
			競技力向上・精神的成長へ向け、生徒に自信や誇りを抱かせる。	B		それぞれが目標を定め良く取り組んでいた。生徒の自主性や自発性を尊重しながら、より適切な援助をしていくことが今後の課題である。
部活動を活性化させることにより、明るく健康的な雰囲気を作り、学校を元気あるものにする。			B	それぞれの部活が目標に応じて積極的に取り組んだ。登校時に、各クラブが挨拶運動に取り組むなど、学校の雰囲気作りに貢献した。		
「教育相談体制の確立」	不登校傾向にある生徒及び配慮を要する生徒への対応をきめ細かく行う。	担任、コース長、学年主任、養護教諭、教育相談担当者、カウンセラー等との連携を強化し情報の共有する。	B	B	カウンセリング予約申請用紙を利用し、担任とカウンセラーの事前打ち合わせを円滑化することができた。	
「職員研修の実施」	生徒指導力を高めるための研修を実施する。	各学期に1回のOJT(現職研修)を実施する。	B	B	1学期に保護者対応についての研修を実施した。	
進路指導部	「奈良大学との連携」	奈良大学との連携を強化し、魅力を発信する。	ガイダンスの充実、施設の共有及び特別進学制度の改善に向け、大学と協議を重ねる。	A	A	概ね良し。次年度は更なる連携を図る。
	「計画的・系統的な進路指導の推進」	体系的な進路指導を推進する。	受験対策としての放課後の講習および高3進学講習を継続して実施する。	B	B	概ね良し。更なる進路実績を上乘せさせるため、個々人によって選択すべき講習の選択幅を広げる。必ずしも全員受講しなくてもいいのではないかと考える。
			校内実力テスト・校外模試・小論文講習を企画・立案し、実施する。	B		
			生徒の志望に応じた個別講習(個別指導)を実施する。	B		
			進路説明会・進路別進学ガイダンスを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	A		
	「キャリア教育の推進」	『キャリア教育推進プラン』を策定する。	『キャリア教育推進プラン』を踏まえた望ましい勤労観・職業観を育成する。	B	B	今年度総括を踏まえ、更なる前進を心がける。
「進路情報の迅速な発信」	ペーパー資料だけでなく、ICTを活用した情報発信に努める。	クラッシーを有効利用する。	A	A	達成できた。	
「学力の3要素を意識した指導」	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等、学力の3要素を意識した指導に努める。	「探究活動」を積極的に導入する。	C	C	概ね良し。次年度は、全学的に実施を呼びかけ、必ず取り組んでもらう。	

【項目ごとの評価】学校自己評価 A: 達成できている B: 概ね達成できている C: 少し課題を残している D: 課題を残している